

思いやりのある心、平和な未来をつくり上げる

(原文)

神谷 知玖 (12 歳)

長野県

松本秀峰中等教育学校

世界ではロシアによるウクライナ進行など、戦争により平和を取り戻さなければならない国がある。実際に戦争を経験した祖母に戦争の話を聞いてみたところ、祖母の父が第二次世界大戦で、アメリカ合衆国のテニアン島で戦死したことを物心がついた時に知り、深い悲しみと戦争に対する怒りを覚えたようであった。

なぜ戦争は起こるのであろうか。私自身の身近な体験をもとに、争いごとはなぜ起こるのであろうかという問いにして考えてみた。私の身近な話として、2 歳上の兄との兄弟げんかについて考えてみた。自分の見たいテレビ番組を見たいがために、リモコンの取り合いになる。最初は言い合いになり、お互いを罵り合うことで互いが怒りを覚え、力づくで取り合うことに発展してしまう。兄の方が力があるため、私の握っているリモコンを奪うように取り、悔しい思いをし、親に兄のことを悪く言うなど愚痴をこぼしてしまうことがある。

私は、父に「歎異抄ってなんだろう」という本を紹介され読んだことがある。その本にはこのようなことが書かれていた。「親鸞聖人は、すべての人は二つの難病で苦しんでいる悪人だ」。その二つの難病といっても治る難病と治らない難病があり、治らない難病のことを「煩惱」と述べられていた。煩惱とは字の通り、私たちを常に煩わせ悩ませるのであり、一人ひとりに 108 あるという。108 の煩惱の中でも、特に三毒の煩惱と言われるのは、「欲」「怒り」「愚痴」の煩惱であった。

「欲」とは、無ければないで欲しい、有ればあったでもっと欲しくなり、限りなく拡散していく煩惱。「怒り」とは、欲がさまたげられると出てくる煩惱。「愚痴」とは、自分より優れ、相手の才能や容姿、お金や財産、名誉や地位を決して快く思えない煩惱。もしかしたら争いごとは、煩惱の三毒がもたらす人間関係の悪化が原因ではないだろうか。兄弟げんかでの兄とのやりとりを思い出しても、思い通りにしたい「欲」がさまたげられ「怒り」に変わった。そして相手の方が得をした場合には、快く思えず、相手の悪口など「愚痴」を親に言っていた。

では、どうしたら人間の「欲」からもたらす「怒り」や「愚痴」の三毒を解決できるだろうか。私の解決策を、ガラスのコップで例えてみる。ガラスのコップの中には「欲」と「怒り」と「愚痴」のミックスジュースが入っているとします。そのミックスジュースがこぼれないように、理性という蓋でしめて

あるのが平和な日常。しかし、そのミックスジュースが入ったコップ同士を強くあててみると、ガラスのコップは割れて壊れてしまう。人間関係に置き換えると、ガラスのコップが割れてしまえば、その中の「欲」と「怒り」と「愚痴」がこぼれて汚れる。その汚れを争いごとと言い換えることができる。このような争いごとを防ぐためには、どちらかがスポンジになる必要がある。理性の蓋をしっかりとしめてガラスのコップをスポンジに強くあてても割れない。私は、このスポンジのことは「思いやりの心」だと思う。思いやりの心があれば、相手を傷つけないだけでなく、相手の気持ちを理解し、争いにならないよう、共に良い方向へ向かうと信じている。

最近では、チャット GPT などの AI の技術進歩により便利な社会になっていく一方、人間社会のコミュニケーションの質が変わり、お互いを気遣う「思いやりのある心」が薄れていく恐れがある。私たち若者が平和な社会を築き上げていくためには、「義理や人情」という日本人の美德ともいえる良さを見つめ直して受け継いでいく気持ちや、昔のことから学んで新しい時代を創ろうとする「温故知新」の心得が若者には必要である。そして何より、お互いを思いやる心を忘れてはならない。